

授業科目	成人看護学	講師名	看護専任教員他	
開講時期	1 年次後期～3 年次後期	単位数	1 2 単位	4 3 5 時間

【目的】

成人期にある対象の特性を理解し、あらゆる健康状態に応じた看護を実践するために必要な基礎的能力を養う。

【構成】

成人看護学	1 2 単位	4 3 5 時間
成人看護学概論	1 単位	3 0 時間
成人看護学方法論Ⅰ （慢性期にある患者の看護）	1 単位	3 0 時間
成人看護学方法論Ⅱ （急性期・回復期にある患者の看護①）	1 単位	3 0 時間
成人看護学方法論Ⅲ （急性期・回復期にある患者の看護②）	1 単位	3 0 時間
成人看護学方法論Ⅳ （終末期にある患者の看護）	1 単位	1 5 時間
成人看護学方法論Ⅴ （看護過程と看護技術）	1 単位	3 0 時間
成人看護学実習	6 単位	2 7 0 時間
成人看護学実習Ⅰ （慢性期にある患者の看護）	2 単位	9 0 時間
成人看護学実習Ⅱ （回復期・生命に危機的状況にある 患者の看護）	2 単位	9 0 時間
成人看護学実習Ⅲ （周手術期にある患者の看護）	2 単位	9 0 時間

授業科目	成人看護学概論	講師名	寺田阿津子	所属	看護専門学校
開講時期	1 年次 後期	単位数	1 単位	時間数	3 0 時間

【学習目的】

1. 成人期にある対象を理解し、成人看護の役割が理解できる。
2. 成人期の健康に影響を及ぼす因子について理解し、健康の保持・増進や疾病予防のための看護が理解できる。また、成人期の保健動向と保健対策を概括的に理解できる。

【学習目標】

1. 成人看護学の概要が理解できる。
2. 成人看護の対象の理解ができる。
3. 成人看護の役割が理解できる。
4. 成人看護の基礎となる理論の概要を知る。
5. 成人の健康と生活、健康問題と予防対策について理解できる。
6. 成人の保健の動向が理解できる。
7. 生活習慣・職業・生活ストレスに関連した健康障害と予防対策について理解できる。

【学習内容】

I. 成人看護の対象と役割

1. 成人看護の概念
2. 成人期の特徴
 - 1) ライフサイクルにおける成人の位置付けと発達課題
 - 2) 成人期の生理的・心理的・社会的特徴
 - 3) 家族と仕事をめぐる状況
3. 健康状態に応じた看護
4. 成人看護の役割
5. 成人看護の基礎となる理論

II. 成人の健康と生活

1. 成人の健康
2. 成人各期における健康問題と予防対策
3. 成人保健と健康の動向
4. 生活習慣に関連する健康障害と予防対策
5. 職業に関連する健康問題と予防対策
6. 生活ストレスに関連する健康問題と予防対策

【使用テキスト】

監修：林 直子他；成人看護学 A 成人看護学概論 南江堂
国民衛生の動向 厚生統計協会

【評価方法】

筆記試験および課題の提出、グループワーク出席をもとに総合的に評価する。

授業科目	成人看護学方法論Ⅰ (慢性期にある患者の看護)		講師名	寺田阿津子 病院看護師	所属	看護専門学校 杏林大学病院
開講時期	2 年次前期	単位数	1 単位	時間数	3 0 時間	

【学習目的】

慢性疾患など生涯にわたりコントロールを必要とする対象及び家族の特徴を知り、その状況に応じた看護を学ぶ。

【学習目標】

1. 慢性疾患患者の特徴が理解できる。
2. 慢性疾患患者と家族の理解ができる。
3. 慢性疾患患者と家族への看護ができる。
4. 主要な慢性疾患患者への看護が理解できる。

【学習内容】

1. 慢性疾患患者の特徴の理解
 - 1) 慢性疾患のとらえ方
 - 2) 慢性疾患の種類と経過
 - 3) 慢性疾患の動向
 - 4) 慢性疾患の治療の特徴
 - 5) 慢性疾患をとりまく療養環境
 - 6) 慢性疾患患者に対する看護の役割
 - 7) 慢性疾患患者の関わる専門職とチーム医療
2. 慢性疾患患者と家族の理解
3. 慢性疾患患者と家族への看護
 - 1) 受容過程への援助
 - 2) セルフマネジメントの基盤となる理論・概念
 - 3) セルフマネジメント能力を高める方法
 - 4) セルフマネジメントを促すための教育的支援
 - 5) 社会資源活用への援助
4. 主要な慢性疾患患者への看護の理解
 - 1) 高血圧 2) 慢性心不全 3) 慢性閉塞性肺疾患・気管支喘息 4) 肺結核
 - 5) 全身性エリテマトーデス 6) 関節リウマチ 7) 慢性肝炎・肝硬変
 - 8) 糖尿病 9) 白血病 10) 慢性腎不全・透析療法

【使用テキスト】

編集：鈴木久美他；成人看護学 慢性期看護 南江堂

【評価方法】

筆記試験

授業科目	成人看護学方法論Ⅱ (急性・回復期にある患者の看護①)	講師名	武信真理子 病棟看護師他	所属	看護専門学校 杏林大学病院
開講時期	2 年次 前期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
【学習目的】 急性期にある患者の特徴を理解し、心身ともにストレスフルな患者や家族が危機を脱していけるような看護の役割と方法を学ぶ。 回復期にある患者の特徴を理解し、回復段階にあわせて心身の回復を促進する看護について学ぶ。 【学習目標】 1. 急性期にある対象の特徴、看護の役割と方法が理解できる。 2. 集中治療下にある患者の看護が理解できる。 3. 特徴的な急性状態を示す病態にある患者の看護が理解できる。 4. 回復期にある対象の特徴、看護の役割と方法が理解できる。 5. 回復段階にあわせて回復を促す具体的な看護の方法を知る。 【学習内容】 1. 急性期にある対象の特徴の理解 ①急性期の概念 ②急性期にある患者の身体的、心理・社会的特徴 (身体侵襲理論 ショック 心理的反応) ③急性期にある患者の家族の理解 2. 急性期にある患者・家族に対する看護 ①救命 ②恒常性の維持 ③苦痛の緩和 ④ニードの充足 ⑤合併症の予防 ⑥情緒的安寧 3. 集中治療下にある患者の看護 4. 特徴的な急性状態を示す病態にある患者の看護 ①広範囲熱傷・体温異常 ②多発外傷・中毒 ③急性呼吸不全 ④急性心筋梗塞 ①～④の看護 5. 回復期のある対象の特徴の理解 ①回復期の概念(リハビリテーション、障害の定義) ②回復期のある患者の生理的・心理的・社会的特徴 (ノーマライゼーション セルフケア) 6. 回復期に看護の役割と方法 ①セルフケアの主体性の移行 ② 全代償看護から一部代償、支援へ 7. 回復段階にあわせて回復を促す具体的な看護の方法 ①脊髄損傷 ②直腸がん(人工肛門造設) ③下咽頭癌 ①～③の看護 【使用テキスト】 編集 林 直子他：成人看護学 急性期看護Ⅰ 概論・周手術期看護 南江堂 編集 佐藤まゆみ他：成人看護学 急性期看護Ⅱ 救急看護 南江堂 編集 酒井郁子他：成人看護学 リハビリテーション看護 南江堂 【評価方法】 筆記試験、課題学習の内容をもとに評価する 備考 テキストを参考にして資料を中心に授業を行う 学習内容3. 7については 課題学習をもとにグループ学習を行う					

授業科目	成人看護学方法論Ⅲ (急性・回復期にある患者の看護②)	講師名	武信真理子 矢部真由美 橋本 正子 坂田 奈緒 病院看護師他	所属	看護専門学校 杏林大学病院
開講時期	2年次 前期	単位数	1単位	時間数	30時間
【学習目的】 急激な身体侵襲を受けて、生体反応が著明に現れる時期の特徴を理解して、手術療法・化学療法・放射線療法の看護について学ぶ。さらに、修復機能の過程に沿い、治癒過程を踏まえて回復期に移行する段階に即した看護を学ぶ。手術療法については、特徴的な手術を受ける患者の機能障害が及ぼす生活の制限に対する看護を学ぶ。 【学習目標】 1. 手術療法を受ける患者の看護の特徴が理解できる。 2. 主要な手術療法を受ける患者の看護が理解できる。 3. 化学療法を受ける患者の看護の特徴が理解できる。 4. 放射線療法を受ける患者の看護の特徴が理解できる。 【学習内容】 1. 手術療法を受ける患者の看護の特徴 ①周手術期の看護の特徴 Moore の回復過程 創傷治癒過程 ②術前・術中・術後の看護 術後合併症 2. 主要な手術療法を受ける患者の看護 ①心臓の手術 ②脳血管の手術 ③消化器の手術 ④肺の手術 ⑤泌尿器の手術 ⑥女性生殖器の手術 ⑦内分泌に影響する手術 ⑧感覚器の手術 ⑨運動器の手術 3. 化学療法を受ける患者の看護の特徴 ①化学療法の特徴と副作用 ②化学療法時の看護 4. 放射線療法を受ける患者の看護の特徴 ①放射線療法の特徴と副作用 ②放射線療法時の看護 【使用テキスト】 周手術期看護 編集 林 直子他：成人看護学 急性期看護Ⅰ 概論・周手術期看護 南江堂 化学療法・放射線療法 編集：鈴木久美他；成人看護学 慢性期看護 南江堂 【評価方法】 筆記試験をもとに評価する					
備考 テキストを参考にして資料を中心に授業を行う。					

授業科目	成人看護学方法論Ⅳ (終末期にある患者の看護)	講師名	寺田阿津子 病院看護師	所属	看護専門学校 杏林大学病院
開講時期	2 年次 後期	単位数	1 単位	時間数	1 5 時間
【学習目的】 終末期にある対象及び家族のニーズを知り、その状況に応じた看護を学ぶ。 【学習目標】 1. 終末期の特徴が理解できる。 2. 終末期にある患者とその家族に起こりやすい健康問題と看護の特徴が理解できる。 3. 終末期にある患者の事例を通して、終末期の看護について考える。 【学習内容】 1. 終末期の特徴 1) 終末期の概念と看護 2) 終末期医療・看護の現状と課題 2. 終末期にある患者に起こりやすい健康問題と看護の特徴 1) 終末期にある患者の身体的苦痛と心理・社会的苦痛 2) 終末期にある患者への援助 3. 終末期にある患者の家族への援助 1) 終末期にある患者の家族の特徴 2) 終末期にある患者の家族への援助 4. 患者、家族のQOLを支えるチームアプローチ 5. 事例をもとに終末期の看護を考える 【使用テキスト】 編集：鈴木志津枝 他 緩和・ターミナルケア看護論 ニューベルヒロカワ 【評価方法】 筆記試験およびグループワークまとめ提出と出席を総合的に評価					

授業科目	成人看護学方法論Ⅴ (看護過程と看護技術)	講師名	寺田阿津子 武信真理子 成人看護学担当教員 病院看護師		所属	看護専門学校 杏林大学病院
開講時期	2年次 後期	単位数	1単位	時間数	30時間	

【学習目的】
事例を用い、成人期の対象と看護の理解を深める。さらに、成人看護学で活用される技術の演習を実施することにより、スムーズに実習に入れる方向づけとする。

【学習目標】

1. 慢性期にある患者の状態に応じた看護が事例を通して理解できる。
2. 慢性期看護の代表的な看護技術が演習を通して理解できる。
3. 急性期にある患者の状態に応じた看護が事例を通して理解できる。
4. 急性期看護の代表的な看護技術が演習を通して理解できる。

【学習内容】

1. 慢性期にある患者の状態に応じた看護の事例展開
1) アセスメント 2) 看護計画 3) 患者教育のグループ発表
2. 慢性期看護の代表的な看護技術の演習
1) インシュリン注射の方法 2) 自己血糖測定法 3) 経管栄養
3. 急性期にある患者の状態に応じた看護の事例展開
(周手術期の事例展開 消化器疾患の手術を受けた患者の事例展開)
1) 術前の評価 2) 術後1日目・術後4日目のアセスメント
3) 術後1日目・術後4日目の看護計画
4. 急性期看護の代表的な看護技術の演習
1) 術前訓練 2) 術後の療養環境 3) 早期離床計画・方法
4) 術創・ドレーンの管理 5) 術直後の観察 6) 退院指導
事例と関連させてグループで課題学習に取り組みプレゼンテーションする
5. 呼吸が必要な患者の看護技術
1) 気管内吸引 2) 体位ドレナージ 3) 副雑音の聴取など
5. 緊急時の看護 一次救命処置の演習 (BLS、AED)
* 演習は杏林大学救命救急センターの講師が講習します

【使用テキスト】

1. 編集 鈴木久美他；成人看護学 慢性期看護 南江堂
2. 編集 林 直子他；成人看護学 急性期看護Ⅰ 概論・周手術期看護 南江堂
3. 編集 佐藤まゆみ他；成人看護学 急性期看護Ⅱ 救急看護 南江堂
4. 編集 野崎真奈美他；成人看護学 成人看護技術 南江堂

【評価方法】

1. 看護過程の展開の課題提出
2. 演習の課題提出 参加状況

備考

授業科目	成人看護学実習Ⅰ (慢性期にある患者の看護)	講師名	実習担当教員 実習指導者	所属	看護専門学校 杏林大学病院
開講時期	2 年次 1 月～3 年時 12 月	単位数	2 単位	時間数	90 時間
【意義】 本実習では、成人期にある対象の特性を理解し、慢性期にある患者及び家族の適応を促進する看護を実践できる基礎的能力、すなわち、知識・技術・態度を養うことを、そのねらいとしている。 慢性期とは、慢性的な健康障害に対し、治療が行われているにも関わらず、長期的に経過している状態である。症状の著しい変化は見られないが、疾病の潜在的な移行が予測され、寛解期と再燃、再発による増悪期が繰り返される時期である。 慢性に経過する健康障害は、生活習慣のゆがみによる生活習慣病を中心とした疾患や、進行する疾患や長期間の罹患により複数の疾患を合併することにもなる。患者が生涯に渡り、健康障害を抱えながら、その人らしい生活を営むためには、疾病の受容ができ、セルフケアマネジメントができるよう患者・家族を援助することが必要である。また、入院期間は短縮、医療政策などから在宅で治療を継続することが可能になってきたことから、社会資源の活用方法や、医療チームの連携を含めた継続看護の必要性についても学ぶ。 人工透析実習では、人工透析を受けながら生活している人の身体的、心理・社会的特徴を知り、看護師の支援について学ぶ。 【目標】 慢性疾患をもつ患者と家族を理解し、1 人の生活者として自己コントロールし、病気とともにその人らしく生きていくことを支える看護ができる。 【学習方法】 1. 慢性期病棟実習（2 週間） 2. 腎・透析センター見学実習（1 日間） 3. 学内学習 【評価方法】 1. 「評価規定」に基づいて行う。 2. 規定時間の 4／5 以上の出席をもって評価の対象となる。 3. 成人看護学実習Ⅰの実習状況をもとに成績表の内容で評価する。 詳細は「臨地実習要項」を参照とする。					
備考 「成人看護学実習Ⅰ」の受講には、実習開始前に、以下の科目を履修していることが必要である。 基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ					

授業科目	成人看護学実習Ⅱ (回復期・生命が危機状態にある患者の看護)	講師名	実習担当教員 実習指導者	所属	看護専門学校 杏林大学病院
開講時期	2年次1月～3年時12月	単位数	2単位	時間数	90時間
〔回復期にある患者の看護〕 【意義】 本実習では、成人期にある対象を理解し、回復期にある患者及び家族の状況に対応できる看護を実践できる基礎的能力、すなわち、知識・技術・態度を養うことをそのねらいとする。 回復期では、病態は安定しているが、回復を脅かす潜在している問題をとらえて、予防とリハビリを中心にした看護を実践する時期である。病気によっては障害を残し、受傷前の状態に戻れないこともある。患者が現在の自分を肯定的に受け止め先に希望を見出すには、看護師の支援的かわりが必要となる。患者・家族と回復の目標を共有し、将来患者が自立した生活が営め、自己の再構築につなげられるような支援を目指してほしい。 【目標】 回復期にある患者と家族を理解し、回復を促す看護が実践できる 〔生命が危機状態にある患者の看護〕 【意義】 生命が危機状態にある患者は集中治療下にあり、多職種が専門性を生かし、協力して生命の危機から脱するようケアする。その中で看護師は24時間ベッドサイドを離れることなく患者のそばで看護にあたる。患者は意識がはっきりしていないことも多く、すべてのニーズを自分で充足できず他者にゆだねている。その権利を守り、生命の危機にある患者の家族の心配、動揺へも配慮しながら看護する実際の場面を見学し、看護の学びを深める。 【目標】 集中治療を受ける患者の特徴、環境、看護を理解する 【学習方法】 1. 回復期病棟実習 (2週間) 2. 救命救急センター又は、集中治療室 (1日間) 3. 学内学習 【評価方法】 1. 「評価規定」に基づいて行う。 2. 規定時間4/5以上の出席をもって評価の対象とする。 3. 成人看護学実習Ⅱの実習状況をもとに成績表の内容で評価する。 詳細は「臨地実習要項」を参照する。					
備考 「成人看護学実習Ⅱ」の受講には、実習開始前に、以下の科目を履修していることが必要である。 基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ					

授業科目	成人看護学実習Ⅲ (周手術期にある患者の看護)	講師名	実習担当教員 実習指導者		所属	看護専門学校 杏林大学病院
開講時期	3 年次 5 月～12 月	単位数	2 単位	時間数	90 時間	

【意義】

本実習では、成人期にある対象の特性を理解し、周手術期にある患者の適応を促進する看護を実践できる基礎的能力、すなわち、知識・技術・態度を養うことを、そのねらいとしている。

周手術期は、手術を受ける患者を中心に手術が決定してから退院後までの一連の過程に沿った看護を提供することである。手術を受けた患者は、手術侵襲から回復する段階で特徴ある反応を示し、回復していく。術後の反応から回復の歩みを判断し、好発する合併症を予防していくケアを実践しながら順調に回復できるように導いていく看護が重要である。

手術療法には患者を中心に医療チームが協力してかわり、退院まで支援している。周手術期チームが中心になり、組織的に支援することで安全性のある手術が短い入院期間で行えるようになっている。その組織の一員である看護師の役割を知り、患者の回復とともに喜び、退院後の支援に目を向けた看護を学んでほしい。

手術療法がおこなわれる手術室の実習から始め、術前術後を過ごす病棟実習を通じて、それぞれの看護の役割と連携について学ぶ。

【目標】

手術が決定してから退院後までの一連の過程を通して周手術期にある患者の看護が実践できる。

【学習方法】

1. 手術室実習 (1 日間)
2. 外科病棟実習 (2 週間)
3. 学内学習

【評価方法】

1. 「評価規定」に基づいて行う。
2. 規定時間 4 / 5 以上の出席をもって評価の対象とする。
3. 成人看護学実習Ⅲの実習状況をもとに成績表の内容で評価する。

詳細は「臨地実習要項」を参照する。

備考

「成人看護学実習Ⅲ」の受講には、実習開始前に、以下の科目を履修していることが必要である。

基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ